

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

<先週の説教から>

『詩編 47 — 神は歡喜の中を上られる』

武田真治牧師

詩編 47:1~10 ヨハネ福音書 12:12~19

最初にこの詩編のト書き(=英語ではタイトルと言われます)を見て下さい。そこに「コラの子の詩」とあります。かつて「コラ」の一族はモーセとアロンに逆らって自分たちも民の指導なりたがったため、神様からの戒めを受け、レビ人でありながらも祭司職から外されて、神殿の下働きをするようになりました。ただ、そこから次第に特に神殿での祭儀における“礼拝の楽器の演奏や聖歌隊の務め”を果たすようになって行ったのでした。ここに「指揮者(ナーツァハ)によって」とありますのは、まさに聖歌隊と楽団の指揮者のことです。また「賛歌(ミズモール)」とありますから、この詩編47篇はエルサレム神殿でのお祝いの礼拝や祭儀の中で用いられた歌であったと言い得ます。それでは、この詩編が用いられた祝祭とはどのようなものだったのでしょうか?

そのヒントとなるのが、6節の「神は歡呼の中を上られる。主は角笛の響きと共に上られる。」です。この祝祭が“角笛が吹かれる”中を“神様が入場”される様子を表現しようとしていることが分かります。ここから、レビ記23章24節以下で特別にお祝するように定められている《新年の礼拝》であることが分かるのです(=「第七の月の一日は安息の日として、角笛を吹き鳴らして記念し、聖なる集会の日としなさい。ユダヤの方々は今でもこの日を(ロシュ・ハシャナ=年頭)と呼んでお祝いします。この時に歌われた詩編だ。)

実は、この礼拝の最も大事な点はこの時が『契約更新日』でもあるという点です。一年の最初の日に思いも新に神様との信仰を“更新する”(=この年もあなたを礼拝しますから、祝福をあたえてくださいと祈る)日なのです。故に、この詩編で「歌え、神に向かって歌え、我らの王に向かって」「神は全地の王、ほめ歌をうたって告げ知らせよ」「神は聖なる王座に着いておられる」等とあるのです。

ここには、地上の支配者や政治家を真の王としない、神様こそまことに従うべき方という信仰が込められています。特に、そのまことの王なる神様の下には「諸国の民から(=イスラエル民族だけでなく)自由な人々(ネティビーム=支配されていない人)が集められ」「神の民となる」という預言の言葉が10節にあります。この世の独裁者や強権君主に完全には膝を屈することのない者たちが集められる時が来ると。その人々こそ、私たちキリスト者でありたいと願います!

私たちの教会暦では、来週のアドヴェント第一主日が、実は《新年の礼拝》です。この時にこの詩編47編が示されていることに深い主の導きを思います。新しい一年を、主なる神様にのみ“従う”一年としたいと“誓う”とともに、また一年、私たちをお守りくださいと祈る者でありたいです!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月4日(水) 20:00
II. 12月5日(木) 10:30

聖書研究: ローマの信徒への手紙

祈祷主題: 奏樂奉仕を覚えて

担当者: (水) 奈良 (木) 岡田

祈りに覚える人: 小岩さん 小杉さん

【教勢報告】

主日礼拝 男20 女57 計77
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男2 女10 計12
日曜学校 幼稚科7 小中科8 計15
ひつじ雲の会(11月26日(火)) 男0 女7 計7

【次週礼拝】*待降節第二主日 12月8日(日)

聖書: 列王記上 17:8~16

ルカによる福音書 4:22~30

説教: 「ルカ^⑩—田舎者の正体を見た!」
武田真治牧師讚美歌: 242(1と2)、236(1)、32、聖歌隊182、
462、475、88(1)

【次週当番表】

司式: 飯田長老 奏樂: 村上 礼拝: 齋藤長老

献金: 保坂 細川 受付: 鈴木 橋本

会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習

・壮年/婦人/ダビデ 各会 ・会堂管理委員会

・長老会

2024年 12月 1日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL& FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>